



# 宝木中学校だより

たくましく さとく あかるく いきいきと

平成31年2月号  
発行責任者 手塚宏行

## 立志の時季

2月5日(火) 2年生が立志式を行いました。  
今年度も、生徒一人ひとりが色紙に書いた「立志の誓い」の発表を行いました。  
この機会に、自分の志を立てることの意義や価値について深く考えとともに、将来の生き方に対し、真剣に考え行動に移すなど、自覚を高めることができるよう期待しています。



## 小学校6年生の中学校訪問

1月18日(金)、小学校6年生の中学校訪問が行われました。  
来年度入学者は約130名で、普通学級は4クラスとなる見込みです。冒頭の学校長あいさつでは、本校や本校生徒の特徴的なことを紹介いたしました。

- ① 落ち着いて学習や運動等に取り組んでいます。
- ② あいさつがよくできます。
- ③ 先輩や先生方は親切、ていねいです。
- ④ 日本一、世界二位の生徒がいます。(硬式テニス、ゴルフ)
- ⑤ 特有の行事があります。(断郊協歩大会等) など

このあと、生徒会執行部による動画を使用した各行事等の紹介、授業参観、実際の部活動見学などが行われました。  
小学生は、やさしいお兄さんお姉さんたちに接し、あたたかい思いをするとともに、入学に期待を寄せていました。



## 茶道体験学習

1月15日の1年1組、2年1、2組を皮切りに、鈴木マサ先生他4~5名の師範を指導者に招いた茶道体験学習が行われました。生徒たちは、師範の方々の教えを落ち着いた気持ちで聞き、一つ一つの動きの深い意味を理解し、かみしめながら実践しました。  
ともすると、恥ずかしさや照れ隠しをしがちな年齢ですが、「結構なお手前で」と心を込めてはっきりと伝えるなど、礼儀正しく真摯に行う生徒の姿に対し、師範の方々も口を揃えて感動をしておりました。  
来年はいよいよ東京オリンピック。諸外国は日本の文化に注目しています。「おもてなし」の心を理解し、今後の生活にも生かし、世界によき文化の考え方を広められる日本人になって欲しいと思っています。



## ◆◆3月の主な行事予定◆◆

6日(水) 県立高一般選抜、1、2年実力テスト	14日(木) 前期生徒会立会演説会選挙
8日(金) 卒業式予行、同窓会入会式	22日(金) 修了式(給食なし)
11日(月) 卒業証書授与式	29日(金) 離任式
12日(火) 県立高一般選抜合格発表	

※学校だよりは、個人情報保護に対応し、個人名や写真は本人等の許諾を得て発行しています。  
※学校だよりカラー版は、「宇都宮市立宝木中学校」HPに掲載しています。

## 災害と避難について考える

昨年末には毎年恒例の「今年の漢字」が発表され、「災」が選ばれましたね。確かに、一年間を振り返ってみると、ずいぶんと**自然災害等**がありました。主だったものを振り返ってみますと



- 1月 関東甲信で大雪・・・東京20センチ超、駅入場規制で改札前が大混雑
- 2月 福井県で記録的大雪・・・ガソリンスタンドで給油制限
- 6月 大阪北部地震・・・ブロック塀の倒壊  
関東甲信が梅雨明け・・・統計史上最も早く
- 7月 西日本豪雨・・・冠水、岡山県倉敷市真備町等  
猛暑・・・熊谷で国内史上最高気温
- 9月 北海道胆振東部地震・・・土砂崩れや家屋の倒壊、液状化現象  
台風21号・・・最強台風 列島直撃 関西国際空港でタンカーが衝突し連絡橋が中破  
台風24号・・・JR 史上初の首都圏全線で計画運休
- 10月 台風25号・・・今シーズン、猛烈な台風は6個目。1983年に並ぶ最多記録  
どうですか。それぞれのニュース映像等を思い出せましたか。

こうしてみますと、地震を除くと、「**地球温暖化の影響がじわりじわりと私たちに忍び寄っている**」と考えるのは・・・はてさて・・・考え過ぎでしょうか。

さて本校では、避難訓練を3回実施するとともに、**豪雨や雷など登校途中で危険な時には、自分の判断で身の安全を確保するよう繰り返し指導してきた**ところですが、皆さんは次のようなことをご存知でしょうか。

### ① 体育館や市民センターなどは、大きな災害が起きた時に避難所になる。

昨年8月には、豪雨の影響で市内の中学校の体育館等に避難所が開設され、NHKでは盛んに各地の避難所開設情報のテロップが流れていました。このことを覚えておくと、自宅だけでなく旅先でも役に立ちます。

### ② 防災バッグをあらかじめ用意しておく。

避難は時間との勝負になりますので、あらかじめの準備が肝心です。

中身を考えるのに参考になるものがあり、それが「**修学旅行**」や「**キャンプ**」のしおり内の持ち物リストと言われています。なぜでしょうか。

避難所暮らしの準備としては「**2泊3日分**」と言われます。ここでご提案したいのが、修学旅行、冒険活動（あるいは家族旅行）に行った後に、そのバックの**中身をすべて片づけるのではなく**、洗濯物を除いた分の衣服を入れ、**防災バックに兼用**してしまうことです。それで約7割は完成です。

さらに電気、水道、ガス、食料がない状態を想定し、必要なものを加えていたらどうでしょう。そのときのキーワードが「**キャンプ**」なのです。

もちろん大荷物になっては、安全な避難に支障が出ますので、両手が空く程度が良いとされています。



### ③ 昔ながらの電気を使わないストーブと灯油等を備える。

ファンヒーターやエアコンは停電では使えませんが、これなら暖房と簡単な調理ができます。（自宅避難時）レトロではありますが、構造がシンプルだけに非常時に強く、寒い時期は、そのありがたみが身にしみます。

現在の中学生は、3・11時には、まだ幼少期だったため記憶がおぼろげなようです。

三陸地方では、「**津波てんでんこ**」と言う災害教訓が昔からあります。これは、津波が来たら、「**家族てんでんバラバラの場所にいた時でも、そこから各自避難行動をせよ**」という意味だそうです。

このことをあらかじめ家族が打ち合わせておき、不測の時は各自で避難し、ある程度の安全が確保できてから、避難した家族を探すことで、逃げ遅れを防ぐのが趣旨だそうです。

この考え方は実に応用性が高く、津波以外でも役に立ちそうです。考えてみれば、**災害は家族が一堂にそろった状態で起こるとは限りません**。ですから、防災バックも各人ごとに用意するのがよいですね。そんな話をしながら子どもに考えさせながら、防災バックを準備してみることは、かなり価値あることだと思います。

また、そんな準備を行いながら、それを通して**子どもが自分で安全な行動がとれる知識や判断力を併せて育む**のはいかがでしょうか。

日本は地震、台風、雷、火山活動など自然災害が多い国です。この国でずっと暮らしていくことを考えると、子どもを**保護する発想とともに、もう一歩発展し、「自らの安全を、自ら守る能力」**を身につけさせる必要があると考えています。本校は引き続きこのような考えのもと、災害教育を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。